

## 「はたらっく・ざま共同企業体」が日本協同組合学会・学会賞「実践賞」を受賞

日本協同組合学会は研究者と実践家が協同組合運動のあり方を学際的に研究することを目的としています。春季大会は「協同組合と社会的連帯経済」、9月の秋季大会は関西大学で「地域の共同を育む協同組合」をテーマに、改めて地域社会における協同組合の位置と役割を確認すること目的として開催されました。

この度、丸山茂樹さん(参加型システム研究所)、志波早苗さん(くらしサポート・ウイズ)の推薦で、座間市就労準備支援事業「はたらっく・ざま」共同企業体が実践賞を受賞しました。講評では、『現在各地域で深刻な問題となっている「働きにくさ」を抱える人たちや生活困窮者を支援する就労支援・就労訓練活動を展開し、就業機会の確保に留まらず、より高次の「生きる・生活する場所」づくりを成し

遂げていること、ワーカーズ・コレクティブによる長年の活動を下地にしており、「協同労働」の可能性を多くの人に訴求する点でも、極めて有用な事業・活動であることなどが評価できる。』としています。

国内地域の協同組合の社会的有用な実践に光を当て掘り起こし、多くの人たちに協同組合の意義を訴える使命と課題を背負う実践賞を、大阪いずみ市民生協グループ、福井市農業協同組合、大阪府鯉巾着網漁業協同組合と共に受賞しました。この成果を、協会の就労支援を支えてきた多くの協力事業者の皆さんと共に喜び、さらなる拡がりにつなげていきたいものです。(なかむらひさこ)

